ともに励まん



２０１９，６，６（木）
北海道旭川永嶺（えいりょう）高等学校３年次だより　第９号　（通巻 104 号）

＊きょうの道新13面「中高生まなぶん」日本画家・千住博さんのインタビュー、読んでみよう！

「読む・書く・考える」

中間考査、お疲れさまでした。全力で頑張れましたか？
あすは永嶺ウォーク。昨年は雨天で中止でしたが、はたして今年は実施なるか？

「読む・書く・考える」・・・これは以前勤めていた学校で書いていた「教科通信」のタイトルでした。読むこと、書くことは、国語科の立場からはうんと推奨する訳なんですが、そのどちらの行為の根底にも、「考える」ということを伴わなければその実は得られないだろうと思うんです。読んで考える、考えてモノを書く。書くことによって思考は整理され、さらに考えは深まる。みなさんも生活の中に「読む、書く、考える」ことをうんと取り入れて下さい。

さて、この学年だよりは、いつも3～4号先の号を書いています。だから、みなさんに読んでもらう時には話題が古くなっていることがありますね？書いているときには「旬」なんですけれど。進路のことやみなさんの学力向上を願ってあれこれ話題を探しています。今回、「書いてみる」シリーズを書き継ぐことを思いつきました。ネタは充分にそろっています。それは「身のまわり」に関わることばかり。身近なことでもよく観察し、よく考えを巡らせば、なんだかんだ、書くことはできるだろう、ということを示してみたい。これを書くことによって、みなさんにも「モノを考える、モノを書く」という動機付けの一助になってほしいと思うからです。とにかく読み、とにかく書いてほしいと思います。
＊「打つ」んじゃなく、「書く」んですよ！
前口上（まえこうじょう）が長くなりました（「前口上」の意味は大丈夫？）。では第1回は「鼻」。

書いてみる１　鼻

芥川龍之介に『鼻』という名短編があります（読んだことのない人は、ぜひ）。その向こうを張って、「鼻」について一文ものしたいと思います。（「向こうを張る」「ものする」という慣用表現の意味は、大丈夫？）



鼻といえば嗅覚。嗅覚といえば犬。（「臭」「嗅」という漢字は、「鼻」の一部と「犬」という字から成り立っています。古代から、犬と嗅覚は密接なつながりが認識されていたのです。）犬は人間の1万倍鼻が利くというが、ボクは犬の1万倍鼻が利く（個人の感想）。人間はどちらかと言えば良い香り系にはそれほど敏感ではなく、イヤなにおい、不快なにおい、どぎついにおいなどに敏感です。しかし、モノによって、快不快の感じ方は、人によって異なります。制汗剤や香水、化粧品なんかの人工モノを心地よく思うか不快系と感じるか。ボクは子どもの頃、なぜかバスの排気臭が好きで、バスの後ろで思いっきり深呼吸したものですが、いまのバスの排気は不快。この場合は何が変わったのだろうか。不思議です。

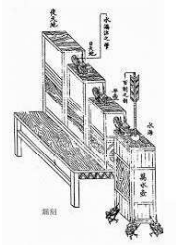
さて、なぜボクは嗅覚が発達したのか、おとなになってつれづれ考えた結果、それは母親であった人が鼻が悪かったからではないか、という考えにたどり着いたのでした。確かに母は鼻が利かないということを言っていたように思うのですが、何かにつけ、ボクににおいをかがせていたことを思い出します。特に食品関係。「これ、あめてない？」と、ボクににおいをかがせました。･･･「あめる」とは古い北海道弁で、食品が傷むことを言います。ぬめりが出たり、酸っぱいにおいがしだしたりした、半分腐りかけた状態が「あめる」。とくにご飯について言いました。今のようにラップやジップロック、タッパに電子ジャー、冷凍庫といった食品保存アイテムが未発達だったからか、よくご飯は「あめた」。そして、そのにおいをかがされ、結果、食品の傷み具合をにおいでかぎ分ける能力が発達した。そんなわけです。

で、では嗅覚の弱い母であった人は、日常生活に支障がなかったのであろうか？これがまたメリットとデメリットがあったようです。メリットとしては、どんなにおいのきつい仕事でも苦無くやってのけていました。便所掃除でもどぶさらいでも何でも。よく働く人、それこそ「身を粉（こ）にして働く」という形容がぴったりの、働く姿でした。デメリットは、前述のように食品の傷み具合がわからないこと、ガス漏れに気づかないこと。鍋の噴きこぼれなどで火が立ち消えても気づかない。危険。そしてなにより、味が･･･。においと連動しているものなのか、味がよくわからなかったのではないかという疑念があります。それは、自分が結婚して、妻のつくる料理の味付けがとてもおいしいと言うことで気がつきました。母親は何にでも砂糖で味付けをしていました。ほんとうに何にでも砂糖を加えていました。きっと、嗅覚のなさを砂糖で補っていたのではないかと思うのです。おかげで虫歯の多い子どもになって、いまでも歯は弱い。

子どもは「育てたように育つ」といいます。あえてそうするつもりでなくとも、子どもはその環境でしか育たないわけで、好むと好まざるとにかかわらず、嗅覚に敏感で味覚に鈍感な子どもがこうしてできあがったというお話。

６月10日は時の記念日

１年３６５日、毎日なにかしらの「記念日」が設定されているようですが、６月１０日は「時の記念日」。これは1920（大正9）年の設定というから、古いものですね。小学生の時にこの記念日の事を聞き、以来、毎年6月10日になると思い出されます。子どもの頃の記憶って、 侮(あなど) れないものです。



由来は、西暦671年4月25日（太陽暦の6月10日）、天智天皇が唐から伝えられた水時計（漏刻という仕掛け）に基づいて時を知らせる（太鼓や鉦で）ことをしたのが『日本書紀』に書かれてあるからということです。

大正年間に「時の記念日」と制定されたその目的は、「時間を尊重し、生活の改善・合理化を進める」ということだそうです。来年で100年になる、記念日の中でも古株なんですね。

みなさん、時間は守れていますか、有効に活用できていますか？　時は金なり。ボーッとしていると、タイム・イズ・モーネー！ になっちゃうからご用心。

チャレンジ！ 四字熟語 x

＊知らなかった言葉は、読み方や意味を調べてみよう。　　得点＿＿＿＿／10 点

★次の四字熟語には各々同じ漢字が二度入ります。空欄に入れるのに最も適当なものをそれぞれ選べ。
(91)［　　］事［　　］難　　読み方《　　》
(92)［　　］死［　　］生　　読み方《　　》
①半　②千　③自　④無　⑤万　⑥非　⑦多　⑧大

★次の四字熟語の空欄にそれぞれ入る字を選べ。
(93)出［　　］進退　　読み方《　　》
(94)千篇一［　　］　　読み方《　　》
(95)厚顔無［　　］　　読み方《　　》
(96)一心不［　　］　　読み方《　　》
①律　②度　③乱　④神　⑤所　⑥知　⑦処　⑧森　⑨恥　⑩覚

★次の四字熟語の空欄にそれぞれ数字を入れよ。
(97)［　　］世［　　］代　　読み方《　　》
(98)［　　］載［　　］遇　　読み方《　　》
(99)［　　］寒［　　］温　　読み方《　　》
(100)［　　］差［　　］別　　読み方《　　》

四字熟語シリーズも10回目。入試等もさることながら、近く行われる「漢字検定」対策も少しばかり意識して掲載を続けてきましたが、取り組んでみましたか？100個以上の四字熟語をものにするだけでも、結構なものだと思いますよ。四字熟語、同音（同訓）異義語、慣用表現･･･これらの知識は今後も日本人をやっていく予定の人ならば、少しずつ少しずつ増やしていくよう、習慣づけよう。これらはいくらあっても損はしない。語彙力はいくら身につけても、着ぶくれもしなければ、血圧も血糖値も上がらない。どしどし貪欲に語彙力を身につけよう！思考力の源は語彙力です。

☆☆☆　来週の行事と時間割　☆☆☆

水無月 ６月		行　事　等 ①②は、１校時２校時をあらわします		★時間割を確認しよう ①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
１０	月	教育実習開始	6 時間							
１１	火		7 時間							
１２	水		6 時間							
１３	木		7 時間							
１４	金	漢字検定(1)	6 時間							
１５	土	小論文模試(1)								
１６	日									

☆学習習慣を途切れさせずに継続しよう！　　（文責　伊丸岡）

ドラマ紹介　あす７（金）19：30～　ＮＨＫ「永遠のニシパ」が放映されます（85分）。松浦武四郎の物語です。北海道命名150年にちなんだ作品ですが、勉強になりそうな気がします。